市報くにさき
No.49
2010年4月号

新ガッツだおまかせくん！ 小学校編

作　ロナウジーニョ太郎　No.49

国東が生んだ世界の哲人

三浦梅園

その足跡と思想（その7）

現代に生かす三浦梅園の思想

これまで「三浦梅園」を様々な角度から紹介してきましたが、このシリーズの一応の締めくくりとして大切と思われる面を一つ述べることにします。

三浦梅園は当時（江戸時代中頃）の日本の学者としてまれに見るほどの幅広い学識を持ち、それにふさわしい業績を残しましたが、それらの学問や業績はその時代の限界を持ったものでした。我々は現在、梅園と比べれば驚くほど進んだ、大量の知識を持っています。しかし大切なことは、学問の新しさよりも、そこに到達した方法とその生かし方にあります。梅園が生涯を通してやり続けたように、「疑問を持って」、「天地に学んで」手に入れた知識がどれほどあり、それをどれだけ、どう生かしているでしょうか。目先の利益のためだけに終わっていることはないでしょうか。

梅園は次のように言っています。

「学問は飯（めし）と心得べし。腹にあくが為なり。掛け物などの様に人に見せんずる為にはあらず。」

学問は「飯」、つまり腹を満たす、人々の生活を豊かにするためのものなのだ。「掛け物」のように人に見せびらかすためのものではないのだ。

今我々が直面している難題、地球規模での環境問題や世界的な経済の困難なども、元はといえば学問のありかたに無反省だったことの結果なのではないでしょうか。人間を「天地（大自然）」の中の「小物（部分的な存在）」と見る謙虚さを備え、同時に政治・経済の基本を、民衆生活の豊かさとした梅園の学問は、現在私たちが直面している難題を解き明かすために生かされるのではないでしょうか。梅園の学問・事跡、残された多くの著作や資料を新しい視点で見直すことが必要になっているといえるでしょう。

問い合わせ
三浦梅園資料館
☎0978-64-6311

弥生のムラ雛節句

3月7日㈰、国東市歴史体験学習館・弥生のムラで雛節句が行われ、市内外から訪れた来館者が、土雛や下げ雛づくりを楽しみました。弥生のムラインストラクターや同館の古代土器づくり講座の講座生の皆さんの指導を受けて雛人形が完成した後、紙で作った雛人形を川に流す「流し雛」で1年間の無病息災を祈願しました。

編集・国東市役所総務部秘書広報課
（☎0978㉒1111・FAX0978㉒1822）印刷・佐伯印刷㈱
国東市ホームページ　http://web.city.kunisaki.oita.jp